

事後評価結果（平成18年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評 価
18-2	駐車デポジット制度（PDS）による受容性と柔軟性の高い都心部自動車流入マネジメント施策の研究と実証	名古屋大学大学院 教授 森川 高行	A
<p><研究の概要></p> <p>都心部の交通環境を改善するため、ITS を活用して「入域賦課金」と「駐車政策」を組み合わせ、「日本型ロードプライシング」を開発することを目的とする研究であった。</p> <p><主な研究成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロードプライシングに比した PDS の受容性の特性の把握 ・ 活動・交通行動予測モデルの開発を通じた PDS の交通改善効果の確認 ・ 名古屋都心部における社会実験による PDS の実証的影響分析の実施 ・ 公平性の観点からみた課金収入の分配方法に関する分析の実施 ・ 合意形成に向けた基礎的知見の整理 <p><事後評価結果></p> <p>実用化に向けては、課金手法の検証、デポジットシステムの開発などに課題を残すが、PDS という他国にも例のないユニークなコンセプトの可能性を大きく前進させていることから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書の個別の章の内容は充実しており、十分な研究成果がみられるが、各章が独立しており、有機的なつながりがやや不足している。各章の分析を総合化し、全体ビジョンを示しておくことを望む。 ・ PDS は、公共交通の結節点において発展してきた中心市街地に配慮しながらプライシングを行うという点できわめてユニークなシステムである。基本的な考え方は整理されたので、改良および実験を重ね本格運用を目指すことを期待する。 ・ 課金収入の分配の分析において、交通サービスの向上に向けたネットワーク（ノード）の整備やシステムの導入など、中心部の交通計画に結びつけることを期待する。 			